

# 魔法のダイアリー プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 佐野 将大

所属: 香川県立高松養護学校

記録日: 平成31年2月11日

キーワード: 重度重複障害 観察 見立て 生活

## 【対象児の情報】

・学年 高等部1年生 Aくん

・障害名 脳性まひ 脳室周囲白質軟化症

### ・障害と困難の内容

✓知的障害を伴う自閉症 ✓肢体不自由（脳性まひ） ✓視覚障害 ◎重度重複障害

### ・対象児の実態

#### （1）受信

- ・一語分、簡単な二語文は理解可能。
- ・具体的な名称理解もできるが、同じようで異なるものは言葉での特定は難しい。
- ・学習していくと、カードの見分けもできるようになる。
- ・抽象的な内容は理解が難しい。

#### （2）発信

- ・要求や拒否ははっきりしている。
- ・肢体不自由や構音障害があるため、うまく伝えられない。
- ・「あ、ば、だ」が言える。

### ・保護者の主訴

- ・いろいろな場面で、子どもの要求を上手くみ取ってあげることができない。
- ・どうすればいいのか、何が原因なのかもはっきりとつかめていない。
- ・似たような場面で落ち付いていたり、パニックのようになってしまったりして傾向がつかめない。

…、泣いたり叫んだりしてしまうんです。



## 【活動目的】

### ・当初のねらい

観察をベースにした実践（黙って観るコミュニケーション実践）の手法を用いて、保護者と一緒に、Aくんの本当の声や困りの様子を、もう一度捉え直すことができれば、場面に限定される成果にとどまらず、生活場面のいたるところに成果がでるような実践ができるのでは。

### ・実施期間

平成30年4月 ～ 平成31年2月

### ・実施者

佐野将大（小学部5・6年時の担任）

宮西麻妃（中学部1年時の担任）

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

現在は高等部1年生のAくん。初めに保護者に相談いただいた5年前の様子から報告する。

**5年前**

・5年前の保護者の主訴

- ・Aくんが泣いたり叫んだりして、伝えることが多い。
- ・落ち着いて選択することが難しく、イライラしてしまう。
- ・保護者が連携機関の担当者と話をするのを、待ってくれない。



・魔法のランププロジェクトでの実践

魔法のランププロジェクトでの実践内容（小5）	その成果								
<p>・泣いたり叫んだりしてしまう<u>場面の記録。</u></p> <p>・場面を特定した上で、<u>やりとり練習。</u> →VOCAの導入。 →場面の構造化。</p> <p>・比較観察を用いた、<u>簡易語彙理解度チェック。</u></p> <p>・理解できる語彙を使うコミュニケーションを説明するための<u>保護者用テキスト</u>作成。</p> <p>・<u>家庭のリビングの場面に限定したうえで、保護者が、そのツールを使えば自然に「子どもに分かる方法で選択肢を提示することができる」ことを目指した「選択用ショートムービー」</u>作成。</p> <div data-bbox="146 1563 689 1780" data-label="Image"> <p style="text-align: center;">選択用ムービー</p> </div>	<p>・どの場面から介入するかを決定する材料とした。</p> <p>・保護者が「子どもの発信を待つこと」「推測を減らすこと」ができるようになったが、泣く回数を減らすという点では直接的な効果は無かった。</p> <p>・実際場面で理解できている語彙とそうでは無いかもしれない語彙をふるい分けるための視点を保護者が得ることができたが、コミュニケーションへの影響が少なく泣く場面の減少に貢献できなかった。</p> <p>・<b>泣く回数に直接影響を与えられることができた。</b></p> <div data-bbox="826 1265 1460 1630" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>泣き続ける回数（一週間）</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導入前</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>導入直後</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>二ヶ月後</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p style="text-align: center;">Fig.7 家庭（リビング）で泣き続ける回数 (引用：魔法のランププロジェクト, 佐野報告書)</p>	時期	回数	導入前	11	導入直後	9	二ヶ月後	1
時期	回数								
導入前	11								
導入直後	9								
二ヶ月後	1								

・結果

リビングで落ち着いてやりとりするための手段と環境を得た。  
『家庭の、リビングで、ビデオを見ているときの』コミュニケーションに見通しを得て変化があった。  
しかし、それ以外の場面では、大きな変化は見られなかった。**場面特定の効果に留まった。**



## 4年前

### ・4年前の保護者の主訴

- ・Aくんが泣いたり叫んだりして、伝えることが多い。
- ・気持ちをくみ取りたいが、選択肢の提示の仕方や聞き方が分からない。
- ・保護者が連携機関の担当者と話をするのを、待ってくれない。



### ・魔法のワンドプロジェクトでの実践

魔法のワンドプロジェクトでの実践内容（小6）	その成果
<p>・「飲み物」を用いた、<u>実物の選択方法</u>について、保護者と一緒に検討。</p>  <p>選択用ムービー</p> <p>・整理したやりとりを用いて、学校や家庭で、<u>選択コミュニケーションの因果関係の学習</u>。</p> 	<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者と一緒に考えられた。</li><li>・実践を通して生まれる様々なエピソードを保護者と教師が共有しながら実践していくことで、選ぶ、ということはどういう風に捉えるのがよいか、保護者と教師と一緒に考えることができた。</li><li>・実際に飲み物を選ぶときのやりとりを整理でき、保護者と共有できた。</li><li>・選択コミュニケーションの因果関係を理解し、選択肢の提示に対して安定した返事ができるようになった。</li><li>・いるとき、には「あ」 いないとき、わからないときには「無言」 で答えられるようになった。 (※適切に提示されているときに限る)</li></ul>

### ・結果

選択コミュニケーションの因果関係を理解し、分かる内容のことを、適切に提示されているときには安定して応えられる見通しを得た。  
しかし、他の場面でのコミュニケーションに影響が見られなかった。話題特定の効果に留まった。

## 現在

泣いたり叫んだりしてしまうんです。

最近、原因が分かりにくくなってきました。



いくつかの実践を経て、コミュニケーションのポイントをつかんだはず(?)だが保護者の主訴は本質的には変わらない。それどころか、新たな言葉が追加されるようになった。

## 膨らむ実践者の課題意識

このような実践の経緯を眺めていると、実践者の心のなかの課題意識が育ってきた。

- ▶実践者の実践の効果は限定的で、生活全般を見たときのAくんの困難さの軽減につながっていない。
- ▶Aくんとコミュニケーションのポイントはつかめている気がするのに、保護者に伝えられない。
- ▶こうやればいい、という提案は、Aくんと保護者にとって、時にマイナスの方向に働くことがあるのかもしれない。
- ▶困っている場面に具体的な提案をすれば、生活全体も改善していくと考えていたが、何か不足の視点があったのだろうか
- ▶Aくんの本当の困りや気持ちについて、ちゃんと理解できていたのだろうか

## 同時に育つ、解決できるかもしれないという見通し

魔法のプロジェクトの他の実践を通して感じてきた「実践の手ごたえ」。ここに解決の糸口があるのでは。

- ▶実践当時は実践者が身に付けられていなかった、観察をベースにした実践がある。
- ▶その手法を用いれば、この状況を一步前に進めることができるかもしれない。

## ・活動の具体的内容

そんな気持ちで保護者に声をかけました

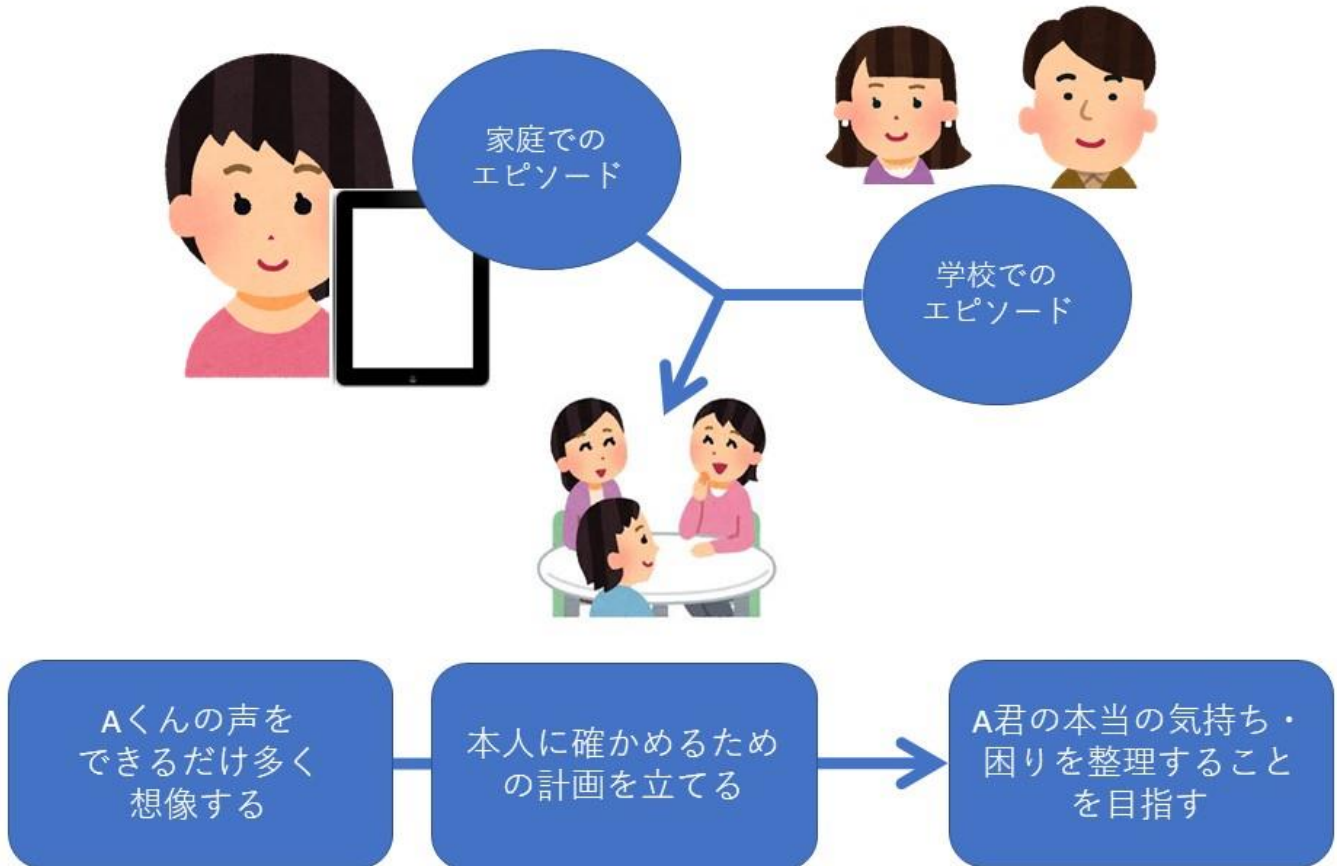
お母さん、今年は、何もせず、一緒に、  
Aくんの本当の言葉を考えてみる実践  
してみませんか？



## ・実践の流れ

- 実践者、研究協力者、保護者の3名で、様々なエピソードを集める。
- そのエピソードから、Aくんの声をできるだけ多く想像する。
- その声を、Aくんに確かめる計画を立てる。
- このことを通して、Aくんの本当の気持ちや困りについて整理していく。

## 実践の流れ（実践前のイメージ）



## ・実際にやってみての経緯の報告

### (1) 自由観察、過去のエピソード収集

実施期間) 平成30年6月4日 ~ 7月1日

実施方法) 実践する3者が、それぞれ観察やエピソード集めを行う。

- 実践者、共同研究者  
過去のエピソードの洗い出し、整理をする。
- 保護者  
1か月ほど、家庭での様子を観察する。

経緯)

保護者が日常観察の結果を iPad の Numbers に記録、実践者にメールで送信してくれた。



表 1 保護者による自由観察の結果 (Aくんが困っている場面の記録)

2018年6月4日	夕方帰宅。犬が小屋でバタバタ 寝転がってDVDを観ている横を姉が歩く 母が犬のトイレ掃除してと姉に言う DVD観ながら理由なく叫び、すぐ落ち着く、そして笑う
6月5日	夕方帰宅。20時過ぎまで母と二人。怒ること一度もなし 父親帰宅後、20分位怒ることなし。お風呂。 姉帰宅後徐々に不機嫌。犬も小屋でバタバタ。かなり不機嫌 布団に入ってから不機嫌 2時間近く不機嫌 (部屋には一人)
6月6日	朝起きてリビングには父と犬 理由分らず不機嫌 その後母と食事、歯磨き中も不機嫌。父家を出て犬とリビング。落ち着いてる。。
6月9日	姉帰宅 理由分らず不機嫌。。ご飯もいらぬといい、お茶と聞くと返事。機嫌なおる。結局お茶が飲みたかったのかな？ 姉ドライバー？ 理由分らず不機嫌。。が、しばらくすると声出して笑う 奥歯が歯茎を突き破って生えてきていた (以前、反対側の生え始めのとき痛がって救急に駆け込んだ) 藤田先生の訓練。不機嫌だった。以前に比べ胸が硬く感じ、呼吸が浅い。そのためイライラしているのかも。。
6月11日	夕食後突然不機嫌。父姉帰宅していない 不機嫌中に父、姉帰宅、ずっと不機嫌。お風呂で気持ちの切り替え。 歯磨き途中で不機嫌。。その後寝に行っても不機嫌。。1時間。
6月12日	歯磨き途中、姉の扉を閉める音？で不機嫌。いつも以上に不機嫌。ダイアアップ使用。携帯動画みせると落ち着く。座薬の効果？
6月13日	久しぶりにデイでも少し不機嫌。学校では2,3時間目のみ不機嫌。帰宅後30分後位から不機嫌。新しい洗濯機回す音？が、自然と笑い出す。 19時気持ちを落ち着かせる漢方を初めて飲ます 布団に入ってしばらくして、姉がお風呂の扉を閉める音に緊張が入り少し反応。機嫌が悪くなりそうだったので、私が歌を歌い始める。
6月14日	歯磨きするよと声かけていた。その2、3分後姉のお風呂扉の音。不機嫌に。父が普段聴かせない携帯動画音楽を聴かせて徐々に落ち着く。
6月15日	帰宅後、家には母のみ。DVD観ながら不機嫌に。 姉のお風呂。
6月17日	泊まり明け、11時前帰宅。家には母のみ。父帰宅18時まで安定している。姉帰宅後すぐに出かける。寝る寸前、不機嫌。圧力鍋の音？
6月18日	姉のお風呂扉の音
6月19日	母と二人、乾燥機の音？少し不機嫌
6月22日	母と二人、理由分らず不機嫌
6月23日	朝、姉のお風呂の扉の音で、不機嫌になりかける。
6月24日	布団に入ってから不機嫌
6月27日	一人でDVD観ながら不機嫌。お風呂入るかの父の声をかけて落ち着く 布団に入ってから1時間ちかく不機嫌
6月29日	泊まり明けで16時帰宅。就寝前、姉のお風呂扉の音。不機嫌に。そのまま布団へ。1時間半近く不機嫌。そのまま眠りに就く
7月1日	朝、姉がお風呂場から出てくる。不機嫌。リビングの扉を閉めきり1人にする。今日は20分くらいで落ち着きDVDを再び見始める 夜、姉のお風呂の扉の音。40分不機嫌。父とお風呂で落ち着く。が、上がって10分しないうちに不機嫌に。50分程不機嫌。就寝。

この表から、「場面・相手・細かな状況の違い」について、抽出してヒントを得ようとした。

表 2 保護者の記録の分析に挑戦したが途中であきらめる

	犬	姉	母	一人で	父	理由分からない	他の人			
朝起きたとき (イライラ)	1					1	1			
朝食時 (イライラ)				1						
朝の歯磨き				1						
朝お風呂の扉の音			1							
朝お風呂から出てくる			1							
自分が家につく時間 (イライラ)				1						
犬が小屋でバタバタ	2									
DVDを見ている近くを誰かに歩かれる (イライラ)			1							
DVDを見ながら (イライラ)				1	1		2			
姉に犬のトイレ掃除を依頼する (イライラ)	1	1	1							
夕食後 (イライラ)				1			1			
二人っきり				1						
誰かが帰ってくる			2							
夜お風呂の扉の音			6						近くには誰がいた？	
人のお風呂			1	1					近くには誰がいた？	
夜の歯磨き			2							
ドライヤー		1								
寝る前			2		1		2			
乾燥機の音			1							
体のケアのとき (不調)				1					1	
歯の痛み？					1					
家を出る (落ち着く)										
お茶を飲む (落ち着く)				1						
自分がお風呂 (落ち着く)						2			しかしすぐに不安定・・・	
お風呂の声掛け						1				
一人になる (20分)					1					

こまかな要素の関係性が見たくなり、それを抽出し関係性を見ようと試みたが、保護者自身も困っている場面での観察であるということや、自由観察であるため、要素の関係性を見出すことは難しいと判断した。

その代わりに、困っている場面や話題を抽出し、これからの実践のヒントを得ることはできるのではないかと考え、整理する方法を変更した。



結果) 自由観察、エピソード収集から、以下の8つの場面・話題を得た。

表 3 保護者の記録から Aくんが困っている場面・話題の抽出

Aくんが困る場面	特定の相手にイライラしている／誰にでも //
家族の帰宅	特定の相手
家族の会話	特定の相手
電話	特定の相手
慣れない人が家に来る(担任含む)	誰にでも(親戚は大丈夫)
Aくんが何か具体的に伝えたいことがある場面	特定の相手
待つ場面	特定の相手 ・ どこでも
ペット(小型犬)	誰にでも
お風呂の扉?の音	誰にでも?(観察不足)

(2) Aくんの声をできるだけ多く想像し、本人に確かめるための計画を立てる

実施期間) 平成30年6月14日、7月19日

実施方法) 記録をもとに懇談し、話題ごとに仮説を立てる。

話題ごとに、以下の観点で進めた。

- ① 似たような状況で結果が異なる場面は無いか
- ② 原因を想像し、書き出してみる
- ③ Aくんの気持ちを想像する(3者の経験を総動員する)
- ④ その気持ちを本人に聞く方法について検討をする

実際に使った資料

The diagram illustrates the process of analyzing recorded data. It starts with a laptop displaying a table of notes. A callout box asks, '結果に影響のある状況の違いは無いか' (Are there no differences in situations that affect the result?). Another callout asks, '原因を想像してみる' (Let's try to imagine the cause). A third callout asks, 'A君の気持ちも想像する' (Let's also imagine A's feelings). A final callout asks, 'それを本人に聞く方法は?' (What are the methods for asking about this to the person?).

Table content (from the laptop screen):

話題1 誰かが帰る	
母と二人でリビング	
因果関係への仮説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Bに</li> <li>・ Bの</li> <li>・ Bの</li> </ul>
A君の本当に言いたいことの仮説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ しずかに帰ってさくたさい</li> <li>・ うるさくなるのがし</li> <li>・ 足音が嫌なんです</li> <li>・ お母さんの動きが嫌</li> <li>・ 急に活動を変えないで</li> <li>・ Bが帰ってくると、何かができなくなる!</li> </ul>
黙って観るコミュニケーションの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そーっと帰宅してみる(B)</li> <li>・ スリッパを履いてみる(B)</li> <li>・ 帰宅時の手順を違うものにする(B)</li> <li>・ 帰宅してから一連の家族の動作を、音が立たないようにしてみる</li> <li>・ 帰宅してから一連の家族の動作を、声を出さずにする</li> <li>・ 一人にさせておき、Bが帰ってみる</li> <li>・ Cがいる状態で Bが帰ってみる</li> <li>・ Bの帰宅に伴うA君の過ごし方の変化をA君視点で観察してみる</li> </ul>

Additional text in the diagram:

- こんなこともありましたよ (spoken by a girl)
- これで息子に聞くことができますね (spoken by a woman)
- こういう風にAくん聞いてみたら、Aくんの反応(生活のなかで、黙って観るコ (written on the table)
- それを本人に聞く方法は? (callout box)



結果) 6つの話題について、検討を進めることができた。

話題1 誰かが帰宅するとイライラする

① 似たような状況で結果が異なる場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>母と二人でリビングにいるときに Bが帰ってくると イライラする</li> <li>Cが帰ってくると イライラしない</li> </ul>
② 原因の想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>Bにイライラしている説</li> <li>Bの帰宅がもたらす「母の特定の反応」がイライラさせている説</li> <li>Bの帰宅がもたらす「生活の変化」がイライラさせている説</li> </ul>
③ Aくんの気持ちの想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>しずかに帰ってきてください</li> <li>うるさくなるのがしんどいです</li> <li>足音が嫌なんです</li> <li>お母さんの動きが嫌なんです</li> <li>急に活動を変えないでください</li> <li>Bが帰ってくると、何かができなくなる！</li> </ul>
④ 確かめる方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>そーっと帰宅してみる(B)</li> <li>スリッパを履いてみる(B)</li> <li>帰宅時の手順を違うものにする(B)</li> <li>帰宅してから一連の家族の動作を、音が立たないようにしてみる</li> <li>帰宅してから一連の家族の動作を、声を出さずにしてみる</li> <li>一人にさせておき、Bが帰ってみる</li> <li>Cがいる状態で Bが帰ってみる</li> <li>Bの帰宅に伴うAくんの過ごし方の変化をAくん視点で観察してみる</li> </ul>

話題2 誰かと誰かの会話でイライラしている

① 似たような状況で結果が異なる場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>母とBが 会話していたら イライラする</li> <li>母とCが 会話していたら イライラする</li> <li>BとCが 会話していたら イライラしない</li> <li>母が 電話していたら イライラする</li> <li>Cが 電話していたら イライラしない</li> </ul>
② 原因の想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通に会話の声が嫌だ・うるさい説</li> <li>自分に母が意識を向けてくれなくなるサインとなることが多いから説</li> <li>自分の時間じゃなくなることが多いから説</li> <li>Aくん視点で見ると、何か生活の切り替え、活動の切り替えになっているからいらいらする説</li> </ul>
③ Aくんの気持ちの想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな声で話をしてください</li> <li>しずかにしてください</li> <li>僕を一人にさせてください</li> <li>僕と話をしてください</li> <li>それをきっかけに急に活動を切り替えしないでください</li> </ul>
④ 確かめる方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>会話の音量を絞ってみる</li> <li>急に会話を止めて様子を見る</li> <li>他の部屋で電話を試みる</li> </ul>

### 話題3 来客へのイライラ

① 似たような状況で結果が異なる場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生が 家に くと <b>怒る</b></li> <li>市の役人が 家に くと <b>怒る</b></li> <li>親戚が 家に くと <b>怒らない</b></li> </ul>
② 原因の想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族で過ごす場所なのに、他の場所で過ごす人がくるなんて信じられない</li> </ul>
③ Aくんの気持ちの想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>来ないで！</li> <li>納得できない！</li> </ul>
④ 確かめる方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生が「家に帰る、先生くる、話をする、帰る」のスケジュールをAくんに写真や動画で伝える。</li> <li>タイマーを用いる。</li> <li>慣れない人がくるときには、写真や動画で説明してみる。 (来客 → タイマーがなる → 帰る)</li> <li>懇談が終了して帰る様子を撮影したビデオを、家で見てもらう。</li> </ul>

### 話題4 ペット（小型犬）に対するイライラ

① 似たような状況で結果が異なる場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬が 母と 遊ぶ と <b>イライラ</b></li> <li>犬が Bと 遊ぶ と <b>イライラ</b></li> <li>犬が Cと 遊ぶ と <b>イライラ</b></li> <li>朝起きたとき 部屋に 犬がいる と <b>イライラ</b></li> <li>犬が小屋でバタバタしているのを 家のなかから聞く と <b>イライラ</b></li> <li>母が Bに 犬の トイレ掃除を 依頼する と <b>イライラ</b></li> </ul>
② 原因の想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の匂いが嫌い説</li> <li>犬が近寄ってくるのが嫌い説</li> <li>犬の音が嫌い説</li> </ul>
③ Aくんの気持ちの想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬を近づけないで</li> <li>嫌なのにコントロールできないから、もう何が嫌なのか分からないくらい嫌</li> <li>しずかにしてください</li> <li>僕を一人にさせてください</li> </ul>
④ 確かめる方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬とAくんが直接触れないような環境を作る</li> <li>イヤマフを提案してみる</li> </ul>

### 話題5 お風呂の扉？に対するイライラ

① 似たような状況で結果が異なる場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>Bが 風呂の扉を開け閉めすると <b>怒る</b></li> <li>Bが 入るときも 出るときも <b>怒る</b></li> </ul>
② 原因の想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>お風呂の扉の音自体が嫌説</li> <li>Bの風呂が嫌説</li> </ul>
③ Aくんの気持ちの想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>とにかく音が嫌だ</li> <li>音の周りで起こることが嫌だ</li> </ul>
④ 確かめる方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>扉の音があるときに、A君に大きめの声で話しかけておく</li> <li>「扉の音がするから、耳をふさいであげようか」と言って耳をふさいであげる</li> <li>扉の音がならないようなお風呂の入り方をする</li> <li>一度だけ、扉を開け閉めせず風呂に入ってみる（家族協力のもと）</li> </ul>

話題6 落ち着く方法に関する話題

<p>① 似たような状況で結果が異なる場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Cが 家を出ていくと <b>落ち着いた</b></li> <li>・お茶を 飲むと <b>落ち着いた</b></li> <li>・自分が お風呂に入ると <b>落ち着いた</b></li> <li>・Cに お風呂に入ろうと言われると <b>落ち着いた</b></li> <li>・一人になると <b>落ち着いた</b></li> </ul>
<p>② 原因の想像</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イライラすることが多いため、本人はもう何にイライラしているのかははっきりとは分かっていない説</li> <li>・イライラすることがはっきりと分かる環境であれば、調整するための行動はできる説</li> </ul>
<p>③ A さんの気持ちの想像</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もうどうすればいいかわからないよ</li> <li>・しずかにしてください</li> <li>・一人にさせてください</li> <li>・切り替えタイムをお願いします</li> </ul>
<p>④ 確かめる方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切り替えタイムのなかでいくつか選択肢を準備する</li> <li>・しずかにする、おちゃをのむ、一人で過ごす、外にでる、お風呂に入る、の一点一点の切り替え活動に見通しをもてるように体験していく</li> </ul>

話題1～6で、3者で出した「②イライラの原因」「③Aさんの気持ち」「④確かめる方法」のそれぞれを、要因と考えられる「人」「音」「見通し」「匂い」で分類してその傾向を探ってみた。その結果が以下のグラフである。

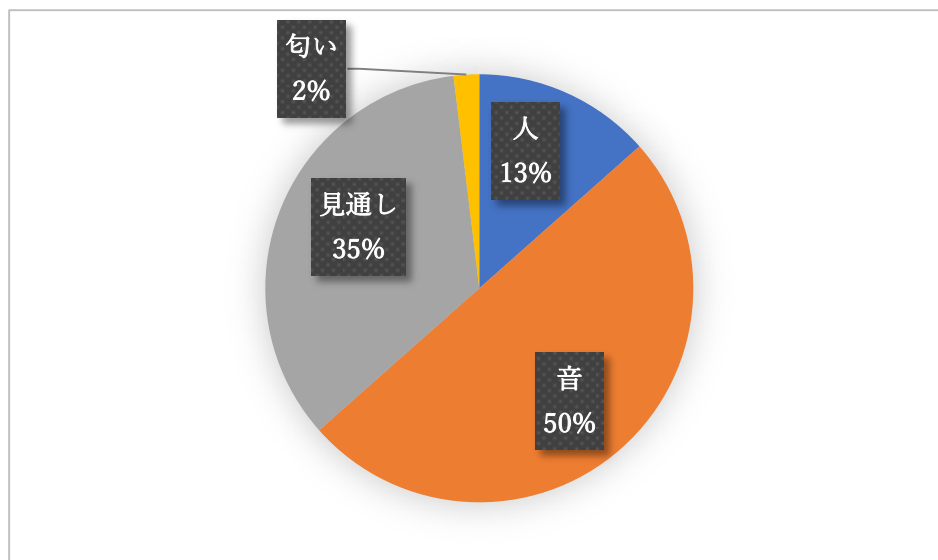


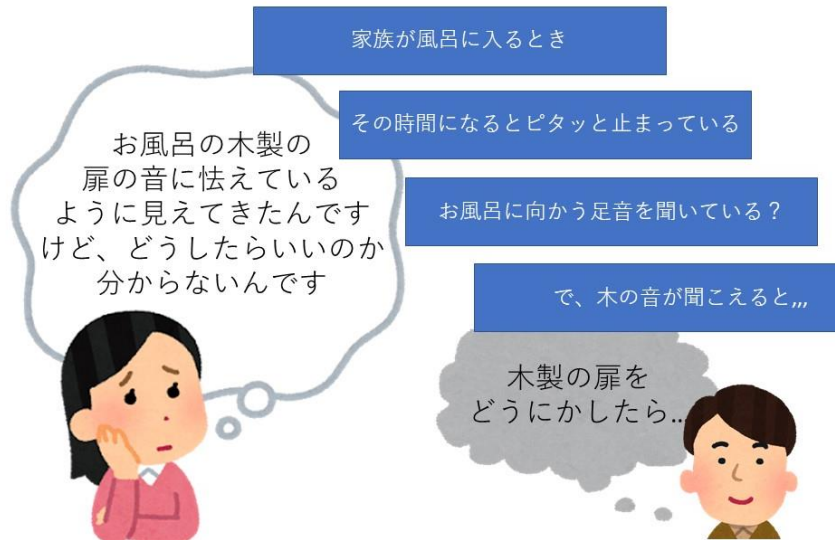
図1 各エピソードから、実践者・研究協力者・保護者の3名で考えたAさんのイライラの背景要素の割合  
考察)

全体を眺めてみると、実践した3者が、実は何を要因と考えているかが分かる。主観的には、「誰に対して」「何に対して」ということが要因であると思っていたが、整理してみると、「音」や「見通し」に原因があると感じているようである。このグラフは、実践者が感じていることを整理したものであるため、追加の観察を用いて本人の様子を慎重に見て、さらに考察を加えていく必要がある。

(3) いくつかについて実施し、その様子を観察する  
経緯)

① 保護者が行った黙って観るコミュニケーション

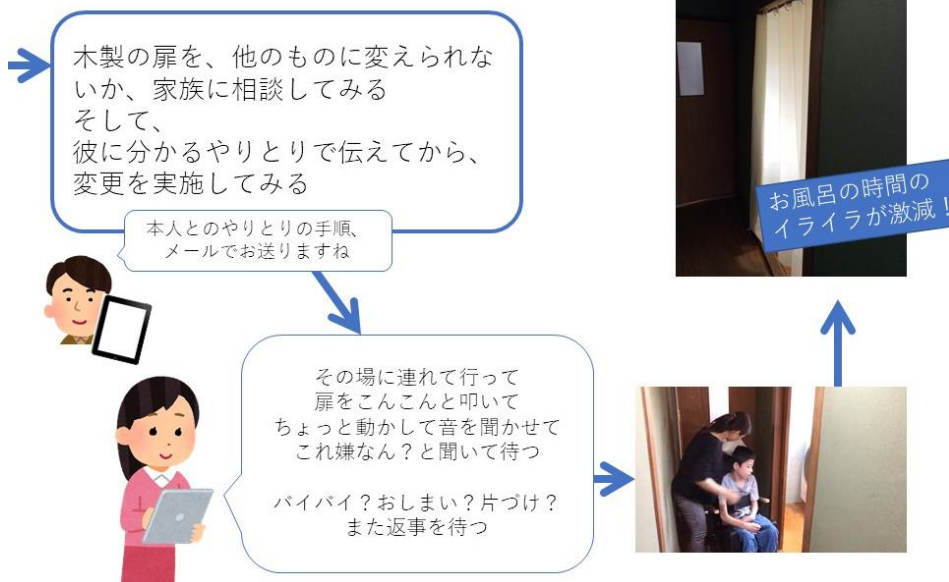
保護者の黙って観るコミュニケーション



保護者が、話題5について追加観察を行った。

- ▶ いらいらするのは、家族がお風呂に入るとき
- ▶ その時間になると、耳を澄ませているのか、ピタッと動きを止めている
- ▶ どうも、足音を聞いているように見える
- ▶ その後、木の扉の音が聞こえると、辛いようだ

やりとりの経緯



- ▶ 家族に、木の扉をどうにかできないか相談してもらおう
- ▶ Aくんへの伝え方は、実践者が保護者にメールで伝える
- ▶ その結果、木の扉はカーテンに変更
- ▶ Aくんのイライラが激減

## ② 研究協力者が行った黙って観るコミュニケーション

研究協力者が、観察実践をした。

- ▶お昼休みに、Aくんが珍しくウトウトしていた。
- ▶手をつなぎたそうにしていたから、つないでそのまま観察をしていた。
- ▶少しの物音に敏感に反応している様子が良く分かった。
- ▶もしかして、夜、ウトウトするときって、さらに不安が増すのかも・・・と感じた。

## 研究協力者の黙って観るコミュニケーション

ねえねえ、ちょっと聞いてくださいよ  
お昼休みに、A君がウトウトしていたんです

手をつなぎたそうにしていたから、  
つないでいたんですけど…

耳を澄ませて、小さな物音に反応してるんです

途中で「手いるん？」って聞いたら「あ」って

不安なのかなって思って…

どう思いますー？



### 考察)

いろいろなエピソードがつながっていく感覚があった。

帰宅時のイライラ。

待てたり、待てなかったりする。

音に敏感に反応していて、視覚障害がある。

抽象的な概念理解は難しいが、簡単な予測は立つ。

誰が、誰に伝えているのか分からないというエピソードもあり、

夜の時間の不安もエピソードとしては目立つ。

・・・不安や恐怖がある。

Aくんの困難さを、「不安」ベースに捉え直してみると、新たなことが見えてくるのではないだろうか。



② ポイントをまとめた資料を作成

表4 Aくんの困難さとそれへの対処方法

困難さとその度合い	対処方法
<p><b>言語理解困難</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経験に伴う具体的な名称、言葉を理解することができる。</li> <li>・ 抽象的な表現、曖昧な事柄の理解に困難さがある。</li> <li>・ 時間の概念の理解に困難さがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいまいな指示をさける。</li> <li>・ 体験を思い出せるように話しかける。</li> <li>・ 具体物やタイマーで伝える。</li> </ul>
<p><b>視覚で状況を理解することの困難</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近くのものが見えるが、距離のあるものは難しい。</li> <li>・ 人数の変化や状況の変化が見えないため、活動の始まりと終わり、区切りを察知・予測しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「見えにくさ、状況の捉えにくさ」が不安につながっていることを理解し支援する。</li> <li>・ 活動の始まり終わりを伝える。</li> </ul>
<p><b>聴覚で見通しを得たいが、認知処理することに困難さがある</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの経験と、聴覚情報をもとに、活動を予測しようとしている。</li> <li>・ 音の正体がつかみにくく怖く感じているものがある。</li> <li>・ 誰に言っているのか区別することに困難さがある。</li> <li>・ 覚醒状態が低くなると、怖く感じる音が増える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音の動き、音の方向、音の意味、を支援者が考えながら A くん伝える。</li> <li>・ 音と実物の関係性を伝えながらかかわる。</li> <li>・ 話しかけるときには名前を呼び、支援者の立つ方向、距離を調整する。</li> <li>・ 寝るときの不安軽減策を考える。</li> </ul>
<p><b>伝達の困難</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構音障害があるため、「欲しい、やめて、どうにかして」を伝えられない。</li> <li>・ 「呼ぶ、はい、いいえ」を上手く伝えられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーションの手続きを適切なものにすれば、A くんは答えられるということを理解して支援する。</li> <li>・ 体験を想起できる言葉や音を用いて、一つずつ確認する。</li> </ul>
<p><b>状況を回避することへの見通し理解の困難</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動障害があり、寝返り移動までしかできない。</li> <li>・ こうすれば自分が楽になる、という経験が少なく、見通しも持ちづらい。</li> <li>・ 場所を離れる、道具を使う、ことの理解困難がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ つらい場面を回避できるよう支援する。</li> <li>・ 回避する方法を説明し、成功体験を重ねる。</li> <li>・ 回避方法のそれぞれに見通しをもち、いずれは自分で選択できるよう支援する。</li> </ul>

③ 主な対処方法を示す資料を作成

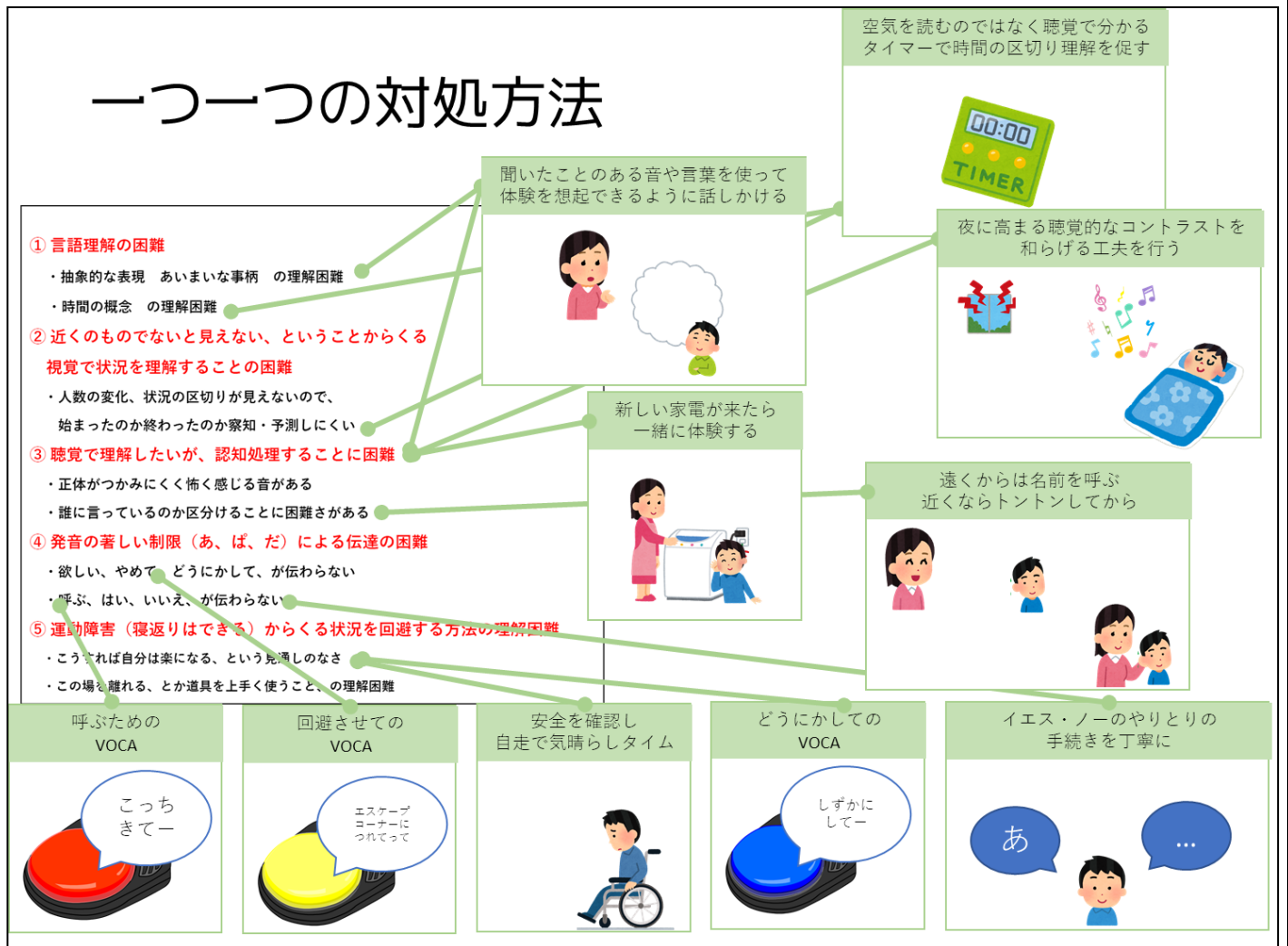


図2 対処方法を可視化した資料

考察)

これまでの5年間の保護者とのやりとりのなかで、一つ一つについては、これまでも話をしたことがあり、新規の話題は少ないように思えた。

しかし、一つ一つの話題だけではなく、関連しているものもある。

- ・視覚で捉えにくいから聴覚で理解したい。
- ・聴覚で理解したいが、音の正体を認知できない音がある。
- ・音の正体についての説明を聞きたいが、言語理解困難がある。
- ・分かったのか、分からないのか、伝えたいが、表出／伝達の困難がある。

このように、困難さを関連付けながら、Aくんの様子を保護者と共有できたのは初めてであり、困難さが『構造的』になって、Aくんが感じている世界を生み出しているのだ、と感じた。



## ・対象児を取り巻く状況の事後の変化

- ▶ 家庭で、タイマーの活用がスタート。
- ▶ 以前の取り組みの意味を保護者がさらに理解し、タブレット端末を用いたコミュニケーションを再試行。
- ▶ 家族がスリッパを変えたときの様子を家族が観察し、理解を深める。
- ▶ ペットの犬が近づかないような方法を模索、試してみる。
- ▶ しずかにしてください、と録音した VOCA の活用を練習してみる。
- ▶ 夜、しんどそうにしている A くんへの対処への提案が保護者から出るようになる。
- ▶ 一緒にいたら安心して寝ている、を家族が発見。
- ▶ 音に気がつけた生活がスタート。
- ▶ 母が、自主的に、A くんのように耳を澄ませて少しの時間生活してみる（疲れた…とのこと）。
- ▶ うるさいのは嫌だが、寂しいのも嫌、という A くんの様子が共有される。
- ▶ 研究協力者が、卒業後のことを想定した、支援者用やりとりツールを検討、試作。
- ▶ 母が、家庭用やりとりツールを検討。
- ▶ 音にやさしい環境ができないかを模索。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

- ① これまでの実践、「VOCA の使用」「構造化」「やりとりツールの開発」「選択時の因果関係理解の学習」は全て意味があったと考えているが、生活に十分にその成果を届けるには不足の観点があった。
  - ▶ 子どもの困難さについて、保護者と共有することで、**一つ一つの実践の位置づけが明確になり、少しずつ生活に届くものになっていくのではないか。**
- ② 「子どもの困難さ」は、子どもによって複数存在する。  
また、それぞれの度合いがあり、そのうえで、どのように関連しあっているか、ということが起きている。
  - ▶ **一つ一つの困難さを見ていた時には見つからなかった子どもの困難さがあったのではないか。**
- ③ 表4のような「相互の関係性も分かる子どもの困難さの捉え方の提案」は、重度重複障害に留まらず、いろいろな手立てや教育の成果を、生活に位置づかせていくための、資料として使えるのではないか。
  - ▶ **困難さの構造を捉えようとする実態整理の方法は、障害が異なっても有効な資料となるのではないか。**

## ・エビデンス

### エビデンス①

子どもの困難さについて、保護者と共有することで、

一つ一つの実践の位置づけが明確になり、少しずつ生活に届くものになっていくのではないか。

#### Aくんの困難さを一緒に書き出したときの保護者の感想

困難さを先生と一緒に書き出してみると、その多さに驚くばかりでした。

びっくりするほど、普段のエピソードとつながっていく感覚がありました。

あのときも、またあのときも、コミュニケーションが「ちぐはぐ」してしまった理由はこれだったのか。

息子はこんな世界で生きているのか。

記憶と聴覚に頼り、物事を理解しなければならぬ息子の状況を想像すると、胸が痛みます。

#### しばらくしてから保護者の感想

分かることに子どもはより注意を向けている、分からないことには注意を向けていない、ということを説明してくれたこと、が、とてもしっくりきて、よく理解できています。

息子と一度入れ替わることができたら、理解できるのに、と思っていました、まさにこの困難さを理解する、ということだったのかな、と思っています。

気持ちが楽になりました。

2歳のとき名前を呼ぶと『あっ』と声を出しました。

息子は返事ができる！と大喜びしたことを覚えています。

その嬉しさから、どのような言葉かけに対しても返事を求めてしまいました。

その結果、意味が分からない言葉にも返事するようになってしまったのかなと、親として心苦しく思います。

できることが多いなかでのできないことは重視されます。

でも、できないことが多い息子は、できることが重視されやすいと思います。

言語理解困難は軽度ではなく、視覚障害も軽度では無いのに…。

息子の本当の声にかなり近づけた気がして、嬉しいです。

でも、欲を言えば、もっと息子が小さいときに、このことを理解できれば良かったと思います。

## 保護者の主体的な実践

- ▶ 「一か月ほど前から、家での待ち時間にタイマーを使うことを取り入れました。」  
「3分ぐらいですが、今では、落ち着いてタイマーがなるのを待っています。」
- ▶ 「iPad を使ってやりとりするのを、もう一度新しい考え方で試してみます。」
- ▶ 「家族がスリッパを変えたときの様子を観察してみました。すごく聞いていました。」
- ▶ 「夜は、添い寝してみ様子を見ます。」
- ▶ 「子どもの真似をして、目を少しつぶって、耳を澄ませてしばらく過ごしてみました。すごく疲れました。」
- ▶ 「家庭用の、新しいやりとりツールとか、休める場所とか、音の環境とか、検討してみます。」
- ▶ 「もし建て替えができる 때가 あったら、また相談に乗ってください」

## 実践協力者の主体的な実践

- ▶ 「ウトウトしているとき観察してみました。」
- ▶ 「・・・、ということであれば、夜は特に、不安なんじゃないですか？」
- ▶ 「ボランティア用の、やりとりツールを検討してみます。」

## エビデンス②

### 一つ一つの困難さを見ていた時には見つからなかった子どもの困難さがあったのではないか。

5年間の実践者と保護者のやりとりを振り返り、整理を行った。

表5 困難さを構造化して捉えることで、共有した話題に変化があったのだろうか

これまで話してきたこと	はじめて共有した A さんの困難さ
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 言語理解困難があること</li><li>・ 抽象的なこと、曖昧なことは難しいこと</li><li>・ 近くのは見えるけど、遠くのは見えないこと</li><li>・ 聴覚で周囲を理解しようとしていること</li><li>・ 構音障害があるため、伝わりにくいこと</li><li>・ そのために、やりとりの手続きを整理すること</li><li>・ ツールを活用すること</li><li>・ 運動障害があるから、逃げられないということ</li><li>・ やりとりが上手くいく見通しをもてていない、ということ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 時間の概念の理解に困難さがあること</li><li>・ 分からないことには注意を向けていないということ (言葉よりも、音や刺激に注意を向け、理解しようとしていること)</li><li>・ 見えないことが、状況理解の困難さにつながっていること</li><li>・ 聴覚を頼りに、必死に予想しようとしていること</li><li>・ 音の正体が分からないことが、不安につながる</li><li>・ 寝るときには、この状況がさらに高まること</li><li>・ 自分が楽になる方法があることへの見通しが弱いこと</li></ul>

## エビデンス③

### 困難さの構造を捉えようとする実態整理の方法は、障害が異なっても有効な資料となるのではないか。

実践を通して、チームで実態を共有し、チームでアイデアを出したり、それぞれの立場で応用したりしないといけない場面において、本実践での「困難さの構造化」が有効であるかもしれないと感じたので、本実践以外に3つのケースで実施してみた。すべての事例（3ケース）で共通して起きた事柄についてまとめる。

- ▶ 実態整理の内容を共有した支援者は、それぞれの役割のもと、具体的な支援内容を試してくれた。
- ▶ 実態整理の内容に関するエピソードを持ち寄って、さらに話げできた。
- ▶ 一つ一つの支援方法の意味理解が深まった、との感想をいただいた。

## ・総合考察

### 実践の成果)

- ▶ 「Aくんの困難さとそれへの対処方法（表4）」を共有したことで、保護者や実践協力者の子どもの捉え方や、日常のコミュニケーション、対応方法の考え方（エビデンス①）について、変化が表れた。
- ▶ 困難さの一つ一つを捉えて伝えるのも大切だが、それぞれの構造を見ていくことで、新たに見えてきた実態があり、それへの対処方法を考えられた（エビデンス②）。
- ▶ 本事例だけではなく、他の事例でも応用可能な可能性を感じる（エビデンス③）が、検証が弱いので、今後も実践と検討を続けていきたい。

### 実践の課題)

実践する上で問題として挙げた「必ずしもAくんの生活に届いていないのでは」という課題については、クリアできたかどうか、まだ検証ができていない。少し実践から時間をおき、その上での評価が必要であると考えている。今後も保護者とやりとりをしながら、「Aくんの生活上の困りが軽減したか」を確認し、必要に応じて追加の実践をしていきたい。

Aくんが困る場面について、その時々クリアするためのコミュニケーション方法が確立されたか、というところまでは至っていない。継続して実践をしていく必要がある。